

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 勝山市立野向小学校  
種 別  保育園・幼稚園     小学校     小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校     中高一貫<sup>※注2</sup>     高等学校  
 教員養成大学     専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫）  
※注1 義務教育学校を含む    ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 911 - 0016  
福井県勝山市野向町龍谷50-9

E-mail nomukisyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp  
Website http://nomuki1817.mitelog.jp/blog/

幼児児童生徒数 男子 20 名    女子 17 名    合計 37 名  
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

### (1) 活動の概要

当校は、「豊かな心でたくましく生きる子の育成」を学校教育目標として、ESDを主に子どもたちが地域や地域の人々となつながら、子供たちが地域を支える根幹になる活動と捉え、ESDの実践を通して、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを発信できる力の育成を目標とした。

具体的には、①地域とのつながりに係わる活動、②文化とのつながり係わる活動、③人とのつながりに係わる活動を行った。

### ① 地域とのつながり係わる活動

～えごまの栽培体験～

野向町には、地域の特産物として「えごま」がある。子どもたちも地域の方に協力してもらいながら、一年を通してえごまの栽培の体験を行った。地域の方の指導のもと、えごまの植え、草刈り、とうみ、収穫を自分たちの手で行った。高学年は、3回目、4回目の体験となるため、手際よく作業を行う姿が見られた。

また今年度は、収穫後のえごまの乾燥を学校で行った。たくさんのえごまを毎日外に干した



り、茎からえごまを取り出したりすることは、大変なところもあったが、「自分たちのえごま」という思いからか、子どもたちは自主的に活動していた。

今年1月に行われた、勝山市年の市で自分たちが育てたえごまからしぼったエゴマ油の販売を行った。6年生のみの活動であったが、えごまについてより詳しく調べ、看板なども作成した。最初は恥ずかしがっていたが、時間が経つにつれ自信を持ってPRを行っていた。



#### ～トウモロコシ栽培体験～

えごまと同時進行で、とうもろこしの栽培を行った。農協組合の方といっしょに、種植えから収穫まで体験した。学校から少し離れた畑を借りたため、水やりに行くのが大変だったが、楽しんで活動する姿が見られた。

収穫したとうもろこしは、地域の祭りで配布した。その際、とうもろこしをもらっていただいた方に、九州北部豪雨災害への義援金を寄付していただいた。とうもろこしの栽培のみで終わるのではなく、義援金活動につなげたことでふるさと学習だけでなく、人とのつながりをより感じられる学習となった。



## ② 文化とのつながり係わる活動

### ～雅楽に挑戦～

野向小学校では、十年程前より雅楽に取り組んでいる。市内の他の学校で取り組んでいる所はないため、子どもたちも「自分たちにしかできないこと」という自信を持って取り組んでいる。また、練習の際には、高学年の児童が中学年の児童に教える姿が見られる。

今年度は、発表の場として夏祭り、町民文化祭、文化祭、卒業式の年4回確保した。地域には雅楽の演奏を楽しみにしている方もいる。講師の方も長年ご指導してくださっており、今後も野向小学校の伝統の一つとして継続していきたい。



## ③ 人とのつながり係わる活動

### ～保育園訪問、介護施設訪問～

学校の近くにある保育園や老人介護施設を訪問した。保育園児とどんな遊びをしたいか、お年寄りの方とどのように関わりあうことができるかを考えた。普段接する機会の少ない人たちということもあり、子どもたちは遊びや会話を楽しむことができ、充実した訪問となった。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 休み時間、放課後 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし
------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

主に総合的な学習の時間とタイアップしながら、ユネスコスクールとしての活動を行っている。またESDカレンダーを作成し、教科とも関連させながら活動を進めている。

また、年度初めに、年間計画として一年の主な活動と実施時期を計画している。教員だけでは、充実した指導や材料・場所の確保が難しいところもあるため、地域の人材を活用し、子どもたちがより体験的に学べるように工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

本校は小規模校であり、ほとんどの活動において、全教職員、全児童が携わっている。そのため、学校全体として取り組んでいこうという思いが強い。

また、地域人材を多く活用している。地域の方に任せることのできる部分をお願いすることで、準備など教員側の負担が少なくなり、また地域の方や保護者に活動を広げることができ、継続しやすい環境になっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

学校の教育活動に対して、教職員評価、保護者アンケートをとっている。また、家庭・地域学校協議会で、意見をいただいている。課題として、子どもの活動を地域の若い世代に発信し、その世代の意識を変える必要があるということがあげられた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

地域の行事に積極的に参加し、活動を通して学んだことを発信している。地域の施設について劇にして発表したり、地域の特産物やその育て方などを新聞にまとめたりした。

体験して終わりではなく、新聞にまとめることで活動の振り返りができ、そこで何を学ぶことができたかじっくりと考えることができた。

また、ブログにアップすることで、多くの人々に活動を知らせることができている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

野向公民館と協働して活動しているものが多い。文化祭では体験活動の講師の派遣なども依頼した。また、NPO法人まちづくりの会、長命会（老人会）、のむき風の郷（野向町のコミュニティーショップ）等の各団体とも連携し、活動の相談や施設見学などのお願いをした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

市のESD担当者会で、学校間の情報交換を行っている。また、市内の学校と遠隔授業・研修システムを介して、英語を使ってふるさと学習についての発表を行った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

地域の行事へ参加したり、地域人材の活用をしたりすることで、地域の人々とのつながりは確実に強くなっている。また、継続的に地域の特産物を扱っていることで、そのものをより詳しく知ることができ、子どもたちの自慢にもなっている。様々な活動を通して、地域の良さを知り、地域の伝統文化を受け継ごう、環境を守ろうという気持ちが育っている。

今年度のえごま油の販売では、地域の方々と一緒に販売をしていたが、その方々から子どもたちがいたことで活気づいたという声が寄せられた。

### (3) 平成 30 年度の活動計画

- ・ えごまの栽培
- ・ えごま加工品の販売
- ・ とうもろこしの栽培
- ・ ジオパークめぐり
- ・ 雅楽に挑戦
- ・ 幼稚園訪問
- ・ 老人介護施設訪問
- ・ 地域の行事への積極的な参加。